



2023年11月1日

各 位

会社名 株式会社ジーエヌアイグループ
代表者名 取締役代表執行役社長兼CEO イン・ルオ
(コード番号: 2160 東証グロース)
問合せ先 執行役 CFO 北川 智哉
(TEL. 03-6214-3600)

10月31日の説明会においていただいたご質問と回答

平素より当社事業へのご支援を賜り、誠にありがとうございます。

2023年10月31日に開催いたしました説明会には、急なお知らせにも関わらず、26名もの方々にご参加いただきました。説明の後に受け付けさせていただきましたご質問とそのお答えを、下記の通り公表させていただきます。なお、本開示は情報発信の強化及びフェアディスクロージャーの観点から開示するものです。

Q1:「グローバル・バリュエーション」という言葉を資料で使われていますが、どのような意図があるのでしょうか?

A1: 当社グループは、これまで日・米・中で事業を展開して来ましたが、今後の戦略の第1のテーマとして、日・米・中から、その他のヨーロッパや中東、アフリカなど新たなエリアも意識しつつ、グローバルに拡大して行くという意図をより明確に込めています。バリュエーションは、資本市場による事業会社の評価ですが、事業がグローバル化していく中で、日本国内の評価にとらわれない評価を得ていこうというものです。例えば、皆さんも良くご存じのとおり、日本では最大手の製薬企業でも5~10兆円ほどに留まるものの、世界の大手製薬企業では50兆円を超す企業も多数あります。その点においても、グローバル中堅製薬会社を目指すことを標榜しております当社グループと致しましては、世界基準での評価を得ていきたいと考えています。

Q2: F351の今後のスケジュールを教えてください。

A2: 既に開示したとおり、52週間のデータ収集期間がありますので、およそ1年後に収集が終わる予定です。終わり次第、早期にレポートを出してまいります。また、動向につきましては、報告させていただきます。

Q3: Cullgenの上場準備中という開示が以前ありましたが、Gyreの上場と関係があるのでしょうか?

A3: まだ正式に決定していません、というのがIRのマニュアル的なお答えにはなりますが、当社グループとしては北京コンチネントの嫁ぎ先が無事決まった今、次はGNIグループとしてCullgenと考えています。その中で2つ目のナスダック市場上場ということも、当然視野に入れております。進展がありましたら、また皆さまにお知らせしたいと思っております。

Q 4 : グローバルバリュエーションという意味で、米国でベンチマークとしている企業にはどのようなところがありますか？

A 4 : 当社グループやその子会社は、世界的にもかなりユニークな存在だと思っていて、正直なところ、完全な同業はいないと感じています。時価総額に関しては、まだ Gyre はナスダック市場に上場したばかりですので、投資家の皆さまの評価がまだ定まっていないかもしれませんが、当社グループ全体としてグローバル展開を進める上では、今後、まずはグローバルに展開する中堅製薬会社が、ターゲットとなると考えています。GYRE となり、その中核子会社に 2022 年度で営業利益 40 億円の会社が入る、そしてその会社がブロックバスターになるであろうと言われている次期製薬の第 3 相治験を順調に進めているというドラスティックな会社の変化、成長を一緒に楽しんでいただければと思います。

Q 5 : Gyre によって米国に展開されるとのことですが、今後更にグローバルに展開するには、必要な機能が変わってくると思います。それらの機能をどのように拡充していくのですか？

A 5 : これも、詳細は Gyre から発表させていただきます、というのが IR マニュアル的なお答えになりますが、まずは Gyre は、中国で既に得られた臨床開発実績を活用し、まず、世界の肝線維症/NASH 患者様向けに、米国で F351 の臨床開発を推進します。また、Cullgen はサンディエゴと上海に拠点を置く国際的なバイオテクノロジー企業でもあることを思い出していただきたいと思います。Cullgen と GYRE の両社は、グローバルな中規模製薬会社になるという当社グループの目標を実現してまいります。繰り返しになりますが、当社グループが目指すのは、グローバル中堅製薬会社になります。

以上